

つぶやき

このコーナーでは各県の相談に対するとりくみ等を紹介していきます。

【取組紹介】

福島県教組女性部長 山家 真紀

小さな学校で低学年を担当していたとき、「なぜ勉強するのか」が帰りの会で話題になりました。子どもたちは、「怒られるから」「いい点数をとる」「お母さんが喜ぶ」「いい大学に行き会社に入って給料をたくさんもらう。」「勉強したことが誰かを助ける」など、低学年なりの考えを話してくれましたが、じっとみんなの話を聞いていた子が最後に言った言葉に、私ははっとさせられました。「私たちが勉強すると、みんなが幸せになるんじゃない。」そんな学びを子どもたちにさせることができているのでしょうか。

先日、原発事故で大きな被害を被った双葉支部の組合員で集会をもちました。組合員は、県内各地に散らばって生活しています。参加者の中で震災後3年目に教員を退職した方が、「震災前から、原発の危険性について学習し集会にも参加し反核の運動に取り組んできた。原発のお膝元の学校で行われている、原子力エネルギーの利点ばかりを強調する学習プログラムが取り入れられた時はおかしいと声を出した。しかし、大きな圧力がかかっている地域の事情の中では抗いきれず、その危険性について、声を大にして子どもたちに伝えることは難しかった。そのことを後悔している。」と涙ながらに話してくれました。



原発事故を経験した今、自身の反省や先輩たちの苦悩を受け止め、みんなが幸せに生きるための学びを自分自身と子どもたちに進めていかなければならないと感じています。福島では、放射線教育の重要性を確認し、進めていこうとする気運が高まっています。子どもたちが自分の体を守ることができるように、それが、将来、経験するであろう「フクシマ差別」を乗り越え、心を守ることにもつながると考えます。放射線や放射能、放射性物質とは何なのか、被ばくするとどうなるのか、どうすれば被ばくを防ぐことができるのか。線量計による計測や実験などを通して子どもたちが知り、その危険性に気づき、自分を守る方法を考える学習を科学的な根拠をしっかりと積み上げて進めていくことが必要です。また、福島では、安全・安心に生活する権利が守られていない状態が続いています。子どもたちが自らの命や心を大切に人権についての学習もまた重要になっています。

全国の集会では、「福島のことには忘れないよ」声をかけて頂くことが多く、本当に感謝しています。みんなが幸せになる学びに取り組み、共に頑張りましょう。過ちを繰り返さないために。

